

「岡谷絹」を世界へ

～手づくりのぬくもり伝える岡谷絹～



糸都 岡谷にしかできないモノ

岡谷では江戸時代の中頃から、農業の副業として生糸の製造が行われていました。

明治に入り、国の殖産興業策として蚕糸業が奨励されると、岡谷の製糸家はいち早く洋式器械製糸技術を導入。努力と創意工夫を重ね、全国一の製糸業地に発展し、「糸都岡谷」の名は世界に響きわたりました。

特に大正から昭和初期の全盛期には岡谷の生糸は全国生産量の25%を占め、世界に輸出されて外貨の15%を獲得するなど、日本の近代化の原動力として大きな役割を果たしました。

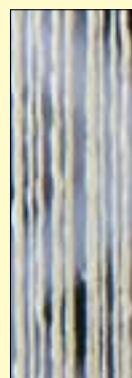
やがて、昭和初期の世界恐慌や太平洋戦争などにより、岡谷の製糸業は次第に縮小され、戦後は精密工業にその地位を取って代わられるようになりました。

しかし、生糸づくりの技術と歴史は脈々と受け継がれています。市内の工場では今も手作業で繭から糸を取り、「あじま純絹糸」という細太の織度むらのある紬糸を生産しています。

この独自の純絹糸を手織り機

で丹精込めて織り上げられた絹製品が『岡谷絹』です。

ネクタイやマフラー、お財布や巾着袋など生活に密着した様々な製品がすべて手づくりされています。



純絹糸



独特の光沢とやわらかな風合い、機械織りでは得ることのできない落ち着いた生地味と美しさを持ち、しわになりにくい性質も備えています。シルクに関する厳しい目と確かな技術に裏打ちされた岡谷ならではの希少性の高い製品として注目されています。

国際的なブランド化をめざして

平成17年6月に「岡谷絹（純絹）製品のブランド化事業」が国のJAPANブランド育成支援事業に選ばれたことを受け、7月には製糸関連企業と行政などで「岡谷絹ブランド推進協議会」が発足しました。

JAPANブランド育成支援事業は、地域の特性を活かした製品の魅力・価値を高め、全国さらには海外の市場に通用する高い「ブランド力」の確立をめざす地域の「プロジェクト」を、地元の商工会議所などが事業の実施主体となつて、新商品開発・市場調査・展示会参加など総合的に支援していくもので、全国で30件、県内では岡谷だけが採択されました。

17年度は岡谷絹の認知度を高めることを目的に、国内二つの展示会とフランスのパリで開催される「メゾン・エ・オブジェ2006」（生活用品の国際見本市）への出展をめざして、市場調査に基づく価格の見直しや他国の安価な絹製品との差別化についての検討や新製品開発の取り組みが行われました。



岡谷絹工房では染色・機織の技術向上のため、平成17年7月から18年1月までに計80回にわたる技術指導を、テキスタイルデザイナーで日本を代表する伝統工芸士の宮坂博文先生に依頼し、織手育成に力を注ぎました。

そしてデザイン面で、岡谷絹のデザイン分野に新風を吹き込むべく、日本テキスタイル協会理事長で多摩美術大学名誉教授のわたなべひろこ先生にも加わっていただき、ものづくりの厚みを増す講習が行われました。

また、岡谷絹の特徴をPRするため、繭の手引きから純絹糸を手織機で織りあげるまでの一連の作業工程をまとめた3ヶ国語（日本語・英語・フランス語）対応のDVDソフトとパンフレット、展示見本のタペストリーを作成し、広報活動を行いました。

国内展示会

17年10月は一般消費者向けの展示会TOKYO URBAN LIFE2005に、12月には専門業者向けの展示会JAPAN CREATION2006に出展し、両会場ともに100人近いブースへの来場者があり、それぞれの立場から商品の見方、価値感、素材の質感等の意見を集めることができた。

でき、今後の展開への貴重な資料となりました。国内のネクタイ一流問屋からは取引を前提とした商談にまで進み、販路開拓に明るい望みが見えました。

STEP MARKET

18年1月、フランスのパリノール見本市会場で開かれた「メゾン・エ・オブジェ2006」への出展は、海外の業者から予想以上の評価を受け、海外での流通確立にも期待が高まりました。



5日間の期間中にはネクタイやマフラー、タペストリーなど130種類、約300点の純絹製品を展示し、12カ国、計180人のブース来場者がありました。その中で20件ほどの商談があり、「デザインを提供するので織って欲しい」（フランスのネクタイデザイン会社）、「日本に行くので絹工房を訪ねたい」（ルクセンブルグ）、「価格の入った商品カタログが欲しい」（フランス・

カナダ・イタリアほか）など岡谷絹の魅力が海外でも認められました。ただ、高い評価を受けた一方で、価格やデザインの点では指摘もあり、ブランド化事業推進の課題の一つとなりました。商談を交わした業者とは今後も連絡を取り合い、岡谷絹の希少性と付加価値への理解をより深めていただくことや、海外の消費者ニーズを見据えた新商品づくりを進めるなどして契約につなげられるようにしていきます。

これからの取り組み

今後は、各地で開催される展示会への出品や有力情報誌への掲載などを図り、岡谷絹の広い認知と販路拡大を働きかけます。

また、新商品開発や織り手の育成・技術向上に努め、生産から販売まで一貫した体制で取り組めるよう、関連企業に呼びかけて協同組合、株式会社などの組織化も検討して岡谷にしかできない『岡谷絹』を世界に発信していきます。

問合せ

岡谷絹ブランド推進協議会

岡谷商工会議所内

☎ 23-12345